

大

乗

教

の

歩

み

大乗教とその発展

昭和五十九年

我が教団は、釈尊成道の聖地インド・ビハール州ブッダガヤにインド大仏の約二倍の建立が発願され起工式が行われた。

二月十二日

インド釈迦堂落慶一周年の式典が営まれた。併せてインド大仏（奈良大仏の約二倍）の建立が発願され起工式が行われた。

五月十三日

教祖大祭（教祖さまを偲ぶ祈りの供養会）に、全国の教会、支部参加の模擬店バザーが開かれ、それぞれ各地の特産や手作りの品々など販売され、多くの人々を喜ばせた。

十月十四日

若き青年層の活躍は教団の大きな原動力であり、彼等の地域交流の一環として大運動会が一宮市丹陽町多加木「江黒公園」にて催された。

十一月十八日

教団を支えた今は亡き先師、信徒功労者の追善法要が例年行われているが、一人一人がみ魂に思いを深めて頂こうと、今年より灯籠供養が始まること。

信徒遺族が、故人の靈名をしたためた灯籠を胸に抱き、教祖殿の祭壇に安置される。

昭和六十一年

インドに於ける大仏建立工事も（インドとしては）順調に進み定礎式が行われる。

昭和六十年

二月二十三日

インドに於ける大仏建立工事も（インドとしては）順調に進み定礎式が行われる。

昭和六十一年

世界各地で、ここ数年来災害や飢餓が続いている。アフリカの食料飢餓、メキシコの大地震、コロンビアの火山噴火による災害など、また国内では交通禍による犠牲者が増え続けている。この様な世界状勢の中で、大乗教婦人部・青年部では、教祖さまが関東大震災の被災者を始め生活困窮者・癡病患者の救済をされていた事にならない、自分達に出来る援助に参加したいと願い、婦人部では大晦日の年越しそば・うどんや節分会の昼食を接待奉仕され、その際に募金をおこない、災害見舞として中部善意銀行を通じて寄金をした。

また合同総会にて、青年部のチャリティー・バザー売り上げ金を交通灾害遣兌救済基金に寄託した。

十月二十六日 名古屋白川公園に於いて昨年に続き恒例の大運動会開催される。

会場には約二十五百名の老若男女が集い秋の晴天下各競技に、日頃の勉強も仕事も忘れて楽しい一日を満喫したのであった。

昭和六十二年

五月十日 教祖大祭に於いて仏舎利塔に安置されてある「涅槃像奉迎十周年記念祭」が営まれた。涅槃像は陸奥国分寺（仙台）より譲り受けられたもので、約三百年前インドで制作され大正天皇がビルマ国王より受領されたものといわれる。

同日、管長杉崎法涌猊下、副管長柴垣法隆先生、山中法臣先生の就任十周年記念祝賀会が催される。

十二月十二日

インド、レストハウス落慶される。教団が建立したインド釈迦堂境内に三階建てのレストハウスが完成した。

釈尊の聖地ブッダガヤは世界から仏跡巡拝の巡礼者が集まるが、特に日本人に向くような宿泊施設は日本寺以外には無い。日本寺内の宿泊

又、かねてより建設が進められていたトレーニング・スクール（職業訓練学校）が完成し落慶式が行われた。就職難の現地人の生活向上の為、職業の資格習得をさせ地域に貢献するのが目的である。又、現地の子を持つ親は教育に关心が薄い為、日曜学校を開設し児童の教育に当たる。式典には初の入校生青年男女、若い主婦、そして児童が参加した。学校は洋裁の指導とタイプライターの指導で、修学は二年コースである。

三月三十一日

青年部、壮年部、婦人部の合同総会が行われ同時に婦人部役員引退者の集い「たちばな会」が発足。再度の活躍を誓い後進の指導と菩薩行の実践に活躍が期待される。

三年前の昭和五十七年四月一日に教団布教の中核となるべき後進の宣教師育成の機関として、大乗学園が開校され、第一回の学園生が卒園式を迎える。布教活動に期待がかけられる。

学園長 杉崎法涌

副学園長 柴垣法隆・山中法臣

講師（教学）森 法誠・後藤法興・瀬上法紹

（布教）木村法胤・鷺見法秀・松原法藏

信田法祥・中村法行・森 法學

（一般教養）栗山法晴・早川史子

（法律）軍司 猛

（講読）杉崎法泉

十一月十七日

秋季大祭行われる。第二回目の灯籠供養が催され、本年より「先師・功労者・物故者 追善供養会」は『秋季大祭』と改名された。

昭和六十三年

の部屋も教室にて、多くの団体の宿泊に応じ切れない。現地の要望もあつて、この度大乗教も巡拝者の便宜に応えるようレストハウスの建設に踏み切った。

五月八日

教祖様ご生誕百二十年を記念し教祖大祭に併せて境内に龍王殿等落慶される。かつて臥龍山にて教祖様が守護神としてお参りされていた祠堂は総本山に祀られた。教祖様のお気持ちを汲み取りこの度、新しく立派な詞堂を建立する事と相成った。

十月二十三日

愛知県西加茂郡藤岡町白川の教祖御聖地に頌徳碑除幕式が営まれる。昨年六月二十八日に教祖御聖地復興保存会が発足されて、五大聖地（笠松・臥龍山・白川・藤森・九州（生の松原））に記念碑または記念像の建立の計画が始まり、教祖開創の地に頌徳碑が建立された。

五月八日

杉崎法山前管長猊下十三回忌営まれる。教団創立の師がご逝去され早くも十三回忌を迎える。現管長杉崎法涌猊下始め宣教師全員、本仏殿に於いて在りし日の面影をしのび大法要が厳かに営まれた。

四月十六日

副管長柴垣法隆師の教団葬が営まれた。

密葬は柴垣先生の本宅（大府）にてしめやかに営まれた。偉大なる仏教行者がお隠れになられる時がやつてきた。何時かはこの時がくると解つてもやはり、その時がくると路頭に迷う思いである。

五月七日

初代管長小坂井啓陽猊下三十三回忌法要される。教祖様のご教導を仰がれ、共に妙法流布に生命を捧げられた先生が静かに無上道に去られて早くも三十三年を迎える。

十一月十八・十九・二十日

インド大仏開眼法要厳修される。

教団信徒一同が念願し、完成を待ち望んでいたインド大仏がついに落慶の運びと成了た。

ダライ・ラマ十四世。チベット僧やチャンダナンダ大菩提会会長。天台宗延暦寺・渡辺惠進大僧正。修驗本宗金峯山寺・五條順教管長。他ブッダガヤ各国寺院僧侶。ガヤ市議員。ブッダガヤ有力者等来賓に統き、日本からは天台宗僧侶十名。金峯山寺僧侶及び信徒四十八名。大乗教管長杉崎法涌猊下他宣教師三十八名。信徒二百三十一名が参加。式典は三日間に亘り挙行された。

大仏は遠く奈良時代に東大寺に建立開眼され、世界の僧侶、仏教徒が参見されたと伝えられる。今正にインドに於いて千二百年前の大仏開眼が再現されたのである。奈良大仏は銅造の大仏であつたが、インド大仏は赤砂岩造りでビル六階建てに匹敵する大きさである。

大仏のサイズ

全体の高さ 二十五メートル 鼻の大きさ 一・五三メートル

頭部の大きさ 六メートル 口の幅 一・四三メートル

目の大きさ 一・四〇メートル 掌の長さ 四・一七メートル

耳の大きさ 二・八五メートル

式典の一部始終は、日本より持ち込まれた大型ビデオカメラで収録された。インドに於いても各インド新聞社からニュース・カメラマンも取材に集まりインド各方面のニュースにもなった。

平成三年

十一月三日

教祖御聖地《笠松》にて、教祖像除幕式が行われる。

教祖ご生誕の地・笠松町に、予てより候補地を探していたが、笠松競馬場の東方円城寺区、木曽川河畔に近い静かな土地が選ばれた。

ご生誕の聖地という事から、此の地には教祖様の尊像を建立することになった。二メートル程の基壇に等身大のブロンズの立像が、南に向かって安置された。若き日の教祖さまのお姿である。杉山定七氏の次女として笠松町八幡町にお生まれになられた辰子さまは幼き頃からお慈悲が深く、施しの好きな方であつたと語り継がれている。

平成四年

昭和二十七年当時大乗教の各教会では総本山より御本尊を受け入仏開眼式が當まれた。

終戦後の混乱期、妙法の正法を説き人々に生きる希望を与えた教団は、二十七年から三十年にかけて全国の教会が次々と入仏式を當んだ。妙法旗の旗竿が並び稚児行列が続き、また張り子の大白象が信徒の手に曳かれて行列に花を添えた。総本山では二十八年に本堂の落慶式とご本尊の開眼法要が挙行され、いよいよ本格的に広宣流布が開始。躍進する教団、妙法広布に燃える信徒、老いも若きも喜び溢れ、教祖様のみ教えにつづいたのであつた。

あれから四十年の歳月は流れた。世代は移り、ゆとりの時代となる。共に信仰に打ち込んだ法友・先師の在りし日を偲び、いま四十年の歳月を振り返り、次の時代を目指して一層の精進を誓い、各教会入仏四十周年記念大法要が行われた。

平成五年

五月九日

開教八十周年を迎え、盛大に記念式典“春季大祭”が営まれた。大正

平成二年

十一月十九日

インド大仏開眼一周年記念祭がおこなわれる。

開眼一年目を迎え、宣教師十四名は十一月十日大阪空港よりバンコク経由にてベトナム・カンボジアを訪問し、インドに向かった。

森法誠副管長先生を団長とした一行はベトナム永嚴寺を表敬訪問し、カンボジアの仏教遺跡アンコールワット及びアンコールトムを研修見学。今なお続く内戦の中を無事予定を果たし、インド（カルカッタ）に入国。夜行列車にてブッダガヤ入りをする。朝日に輝く白亜の大仏は東方の大塔に向かって鎮座され、そのお姿は遠く彼方より望まれた。祝迎堂のスタッフに迎えられた一行は、一年前の感激が蘇り胸が一杯になつた。式典では、来賓として外国僧代表ブッダガヤ寺院運営委員会ギャンジャガット師及び各国寺院僧、ガヤ市長官アディティシ・スワループ氏、U・N・パンジャール氏を迎え、読經に続きレセプションが行われた。

十二月九日

第一回大乗学園祭行われる。

大乗学園三年の課程を終えた卒園生は、学んだ経験を活動させてこそ真価があります。共に学んだ学友たちが親睦をはかり交流を深め妙法流布に一層の意欲が生まれたとしたなら、学園祭の意義は大きいと思われます。

三年秋、教祖杉山辰子先生は名古屋市東区葵町三十五番地に「仏教感化救済会」の本部を置き、法華經の広宣流布や貧困者・被災者・ハンセン氏病患者の救済等を全国にわたって行われた。

仏舎利塔内教祖殿に於いて、献菓・献茶・御詠歌奉詠が行われ、教祖さまに心からなる感謝の念を捧げ、読經が厳かにあげられた。併せて初代管長小坂井啓陽猊下の三十七回忌の供養が當まれ、教祖さまを支えられ共に教団の基礎を築かれたご功績を衷心より御礼申し上げたのであります。

式典後、涅槃堂建立地鎮式が本堂西の敷地にて行われた。
(身長五・六メートル)を迎えて、仏舎利宝塔内に安置されたが、このたび涅槃堂建立の運びとなつた。

その後、本堂前にて、宣教師・教会代表者による、祝賀餅なげが盛大に行なわれた。

インド祝迎堂落慶十周年及び大仏開眼五周年法要
十大弟子像(舍利弗・目犍連)除幕式

印度祝迎堂落慶十周年及び大仏開眼五周年法要
十大弟子像(舍利弗・目犍連)除幕式
かねてより十大弟子像の建立が待ち望まれていたが、祝迎堂・大仏の記念法要と重なつた。高さ五メートル、砂岩で造られた舍利弗・目犍連の二尊が完成。高さ二十五メートルの大仏の両側に、美しい姿があらわされた。

十二月三十日

副管長山中法臣師ご逝去

山中先生は享年八十五歳にて永眠されました。

戦後の混乱期に、迷える人々に生きる力を与えた大乗教団の建設と發展に大きな貢献をされ、多くの信徒を教導された。

この世紀の祭典は宗教新聞「中外日報」にても全国に報道された。

又、十一月十九日総本山に於いてもインド大仏開眼報告祭が営まれ、全信徒は開教以来の歴史的事業を成し遂げた教団の偉業に感銘するばかりであった。

●年表〔昭和59年より平成5年まで〕

大乗教 年中行事

1月1日	元旦会
2月上旬	節分会
2月15日	涅槃会
3月20日	春季彼岸会
3月下旬	婦人部・たちばな会 合同総会 壯年部・青年部
4月8日	釈尊降誕会
5月上旬	春季大祭（教祖大祭）
7月上旬	婦人部第1・2部 研修会
7月下旬	青年部夏期鍊成会〔道場〕
8月15日	盂蘭盆会
9月上旬	壯年部 研修会
9月23日	秋季彼岸会
11月下旬	秋季大祭
12月8日	成道会
12月31日	除夜祭（護摩供養会）

総本山《月例行事》

6・16・28日 団体参拝日
11日 月例法要会

1993年

【平成5年】

1月10日	前管長杉崎法山猊下17回忌法要
2月21日	*愛知教会 入仏40周年祭
3月21日	大乗学園第七期生 卒園式
5月9日	開教八十周年記念 春季大祭 (§ 初代管長小坂井啓陽猊下37回忌法要)
9月16日	*名南教会 入仏15周年祭
11月9日	インド釈迦堂落慶十周年 及び 大仏開眼5周年法要
11月28日	十大弟子の舍利弗尊者・目犍連尊者の各立像が除幕
12月30日	山中法臣師 逝去
1月16日	開教八十周年記念 秋季大祭 〔平成6年1月16日 副管長山中法臣先生 教団葬〕
2月28日	〔石造 高さ5メートル〕
3月7日	東京地検特捜部は所得税法違反の疑いで、自民党前副総裁、金丸信氏を逮捕
5月15日	Jリーグ「日本プロサッカーリーグ」が開幕される
6月9日	皇太子さま、成婚の儀が行われる
7月12日	北海道南西沖にマグネチュード8の大地震起きる。翌日の北海道庁の調べでは奥尻島の被害が最もひどく、6メートル近い津波が何度も襲い、さらに火災が発生。青苗地区では一瞬にして静かな漁村が一つ消えてしまった。死者八十一人・行方不明一六七人と発表。しかし更にその数は増えていった
8月9日	单独政権の自民党は、宮沢内閣の不信任で解散。総選挙により連立政権が誕生。38年ぶりに自民党は政権の座をおりる事になった。新首相は細川護熙氏
12月16日	閣の将軍と異名された田中角栄元自民党首相は、甲状腺機能障害による肺炎併発のため死去。(75歳)

1月19日 皇太子さま（浩宮徳仁親王）と小和田雅子さんの婚約が正式に決定する

1月19日 第42代米大統領にクリントン氏が就任

1月19日 東京地検特捜部は所得税法違反の疑いで、自民党前副総裁、金丸信氏を逮捕

1月19日 Jリーグ「日本プロサッカーリーグ」が開幕される

1月19日 皇太子さま、成婚の儀が行われる

1月19日 北海道南西沖にマグネチュード8の大地震起きる。翌日の北海道庁の調べでは奥尻島の被害が最もひどく、6メートル近い津波が何度も襲い、さらに火災が発生。青苗地区では一瞬にして静かな漁村が一つ消えてしまった。

1月19日 死者八十一人・行方不明一六七人と発表。しかし更にその数は増えていった

1月19日 単独政権の自民党は、宮沢内閣の不信任で解散。総選挙により連立政権が誕生。38年ぶりに自民党は政権の座をおりる事になった。新首相は細川護熙氏

1月19日 閣の将軍と異名された田中角栄元自民党首相は、甲状腺機能障害による肺炎併発のため死去。(75歳)

あ と が き

平成四年の初夏の頃、開教八十周年を記念して、「教団史」を増刊発行することが決定され、編集するためには委員として選任されました。その後、委員一同は毎月一回乃至二・三回と鶴首亀意しながら、編集に取り組んで参りました。だが昭和五十九年に発刊された「教団史」の編集委員の方々の頭脳明晰なる編集に圧倒され、浅学非才な我々は、ただ尻込みをするだけでありましたが、今日ようやく発刊することが出来ました。

教団史上最大の世紀の祭典であったインド大仏開眼大法要を前面に打ち出し、誌面の大半をしめさせて頂きました。だが国内に於ける教団行事となりますと、總本山行事はもとより、婦人部・壮年部・たぢばな会・青年部等の年中行事は、毎年の如く大同小異であつて、写真の選定に苦惱し、委員以外の諸先生方の御意見も多々頂きまして、ようやくにして編集いたしました。

編集に当たつて、写真が前後したり、見出し等に誤りがあるやも知れませんが、御信徒各位の寛大なる心を以てお許し下さる様お願いいたします。また今日までの過程で、数多くの方々より写真を提供していただきたり、助言を頂きましたことを、誌上では失礼かとは思いますが、厚く御礼申し上げます。

不備なる出来栄えの「教団史」となりましたが、末永く膝下に置いて頂き、一読一覧下さるなれば、編集委員一同幸甚の至りでございます。

平成六年九月吉日

編集委員一同

大乗教 教団史

71年～80年の歩み

平成六年十月一日発行

編 著者 教団史編集委員
発 行 人 杉 崎 法 涌
発 行 所 大 乗 教 総 務 庁
名古屋市熱田区外土居町四番七号
製 印 刷 オ ビ キ 印 刷
本 飯 島 製 本 株 式 会 社